

明日はこれを読もう

二見時代小説文庫



小杉健治 見えない敵

栄次郎江戸暦22

手首を傷めた
栄次郎は
得意の抜刀術を
使えず…



栄次郎は手首を傷め、撥も刀も握れずにいた。折しも兄栄之進に三千石の大身旗本の娘との再婚話が舞い込んだ。矢内家は二百石の御家人、もしや栄次郎の出生の秘密を知ってのことか。一方、五年前の「事件」を探り当てた者から、二人の商人に強請りの文が届き…。

二見書房